

平成20年11月4日

各位

会社名 大和ハウス工業株式会社

(コード番号 1925 東証・大証第一部)

代表者名 代表取締役社長 村上 健治

問合せ先 経営管理本部 IR室長 土田 耕一

電話番号 (06) 6342 1400

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月13日の決算発表時に公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成21年3月期 通期連結業績予想の修正 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,750,000	95,000	93,500	52,000
今回修正予想(B)	1,665,000	70,000	60,000	26,500
増減額(B-A)	85,000	25,000	33,500	25,500
増減率(%)	4.9	26.3	35.8	49.0
(ご参考)前期(平成20年3月期)実績	1,709,254	89,120	61,290	13,079

2. 業績予想修正の理由

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、平成20年6月20日に公表した修正後の連結業績予想の水準を確保することができました。

しかしながら、世界的な金融市場の混乱などにより景気の下振れリスクは高まり、さらに不動産市場が縮小する方向にあり底が見えないなか、「大和ハウスリート投資法人」の上場を中止したことに伴い当社が同投資法人へ売却を予定していた不動産等の売却が現時点では見込めなくなったこと、及びマンション事業において予想以上に販売市況が悪化したことなどに伴い、通期の連結売上高及び営業利益の予想を修正いたします。

また、当社及び一部の国内連結子会社が加入している企業年金基金制度について、基礎率等の見積数値を一部見直したことなどに伴い、退職給付数理差異償却費用を営業外費用として約90億円計上する見込みとなりましたので、併せて連結経常利益の予想を修正いたします。なお、年金資産の期待運用収益と実際の運用成果との差異につきましては、年金資産の運用状況により市場動向次第で大きく変動するため、今回の連結業績予想には見込んでいません。

さらに、不動産価格の下落や競争の激化に伴う収益性の悪化により、収益性の改善が困難と思われる一部の事業用資産について減損損失を90億円程度計上する見込みであるため、併せて連結当期純利益の予想を修正いたします。

(参考資料)

事業の種類別セグメント 売上高 通期予想

(単位：百万円)

事業の種類別セグメント	前回予想	修正予想	差異
住宅事業	970,000	978,000	8,000
商業建築事業	565,000	493,000	72,000
リゾート・スポーツ施設事業	68,000	63,600	4,400
ホームセンター事業	67,000	66,400	600
その他事業	160,000	151,500	8,500
消去又は全社	(80,000)	(87,500)	7,500
合計	1,750,000	1,665,000	85,000

事業の種類別セグメント 営業利益 通期予想

(単位：百万円)

事業の種類別セグメント	前回予想	修正予想	差異
住宅事業	45,500	40,800	4,700
商業建築事業	64,500	48,500	16,000
リゾート・スポーツ施設事業	100	400	500
ホームセンター事業	2,200	1,400	800
その他事業	5,200	3,500	1,700
消去又は全社	(22,500)	(23,800)	1,300
合計	95,000	70,000	25,000

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としています。今後実際の業績は、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上